

Dr. ジーアの My カルテ

全農家畜衛生研究所
クリニックセンター



導入牛の防疫管理

農場への牛の導入時、健康状態や歩様の確認などさまざまな事に気をつけていると思います。なかでも忘れてはならないのは、導入牛は農場に新たな病気を持ち込む、または広げてしまう可能性がある事です。今回は導入牛の管理法を紹介します。

●導入牛と病気対策

導入牛は、輸送により強いストレスがかかった状態で農場へとやってくるので、もともと農場にいる牛たちよりも抵抗力が下がっており、感染症にかかりやすいといえます。

導入後しばらくは朝・夕の管理以外にも注意を払いましょう。配合飼料、草の食べ残しが残らないか、咳や鼻水、下痢等が見られないかよく観察し、異常が見られた際には個別隔離や早期の治療といった対応ができるように準備してください。

仮に、抵抗力が下がって感染症にかかってしまった導入牛と、農場内の在来の牛たちが直接接触できる状態であれば、導入牛から在来牛へ病気を広げる事となります。最悪の場合、導入牛を起点とし、農場全ステージを対象とした対応を検討しな

ければならない場合もあります。農場内への病気の広がりを防止するため、導入牛は一定期間(2~3週間程度)隔離します。理想は導入牛だけが入る牛舎を用意する事ですが、難しい場合は、別の方法として牛房間にコンパネを張る(写真)、牛房を1つ分空けるなど、物理的に牛同士の接触を防ぐ対策を行います。

導入時に病気の検査を実施している場合には、検査結果が出るまでは在来牛との接触を避けます。

農場内の感染の状態を勘案し、隔離期間中にワクチン接種を行う場合もあります。実施に際しては、かかりつけの獣医師と相談してください。

●導入牛舎の消毒

隔離期間を終えて牛を移動した後は、導入牛舎(牛房)の消毒を実施し

ます(図)。糞などの有機物が残っていると消毒剤の効果が弱まってしまうため、ホイールローダやスコップで極力除糞を行い、動力噴霧器などを用いて水洗を行います。水洗の際は床面だけではなく、牛を飼っていた環境(餌槽・柵等)も実施してください。水洗後、十分に乾燥させてから消毒を行うと、より効果的です。

病原体の多くは乾燥に弱いため、消毒後も十分に乾燥させる事で更に消毒効果が高まります。乾燥期間は、1~2日以上を設けられると理想的です。なお、冬場などは乾燥にこれ以上時間がかかる場合もありますので、乾燥状態はその都度確認してください。

病気対策は牛の導入時から始まっている事を忘れずに対応をお願いします。

写真. 牛房間のコンパネ設置



図. 導入牛舎の消毒の流れ

